

1945年から1948年まで内務省矯正施設収容所・刑務所部長タスランギーン・バボードルジ：捕虜となった日本兵士たちの爪に漢字で書かれていた名前と住所について<sup>1</sup>

オーホノイ・バトサイハン  
モンゴル科学アカデミー国際研究所  
<https://orcid.org/0000-0002-5543-5664>

概要：今年にはモンゴル国と日本との間に国交が樹立された50周年に当たる。第二次世界大戦後、ソ連の捕虜となった日本兵のうち、一定数がモンゴルに送られ、労働させられていたことを我々は知っている。当時、すなわち1945年10月から1948年2月まで内務省再教育労働キャンプ及び刑務所管理部局長を務めていたタスランギーン・バボードルジ氏が、1989年から1990年頃に自らの手で回想録を記し、私に与えたのである。氏は回想において、1930年代のモンゴル史の複雑な問題、例えば1932年の「ラマたちの反乱」について、デミド元帥について、チョイバルサン元帥による自白の命令について極めて興味深いことを書き記している。それとともに、捕虜となった日本兵が帰郷することになった際、日本兵捕虜ユルー収容所長の石井少佐が、「そこで亡くなった兵士の親指を切断し、姓名・年齢・出身地を記して」持って行ったことについて興味深い話を書き記していることを述べておく。そして、1945年12月12日に閣僚会議の下部組織として設置された捕虜管理総局長としてバダムジャビーン・ソソルバラム氏が働いていた。1947年11月4日、閣僚会議所属の捕虜管理総局を拡充し、モンゴル人民共和国閣僚会議所属の建設管理総局とした。この回想録の主人公であるバボードルジ氏は、1948年2月から1956年9月までモンゴル人民共和国産業大臣を務めた人物である。氏は、ザサグト・ハン部エルデネ・ドゥーレクチ旗、すなわち現在のフブスグル・アイマグのツェツェルレグ・ソムの住民である。

キーワード：日本兵捕虜、第二次世界大戦、T.バボードルジ、モンゴル人民共和国、日本、ソ連

---

1 第二次世界大戦後、ソ連は捕らえた日本兵の一部をモンゴルに送った。2005年、私は「モンゴルにおける日本兵捕虜」というテーマで文章を記し、岡洋樹教授の翻訳により日本語で日本モンゴル協会の機関誌『日本とモンゴル』の2005年3月刊行の第110号に掲載した。今回の報告では、バボードルジ氏の回想録からその文章に含まれた日本兵捕虜に関する事柄を述べるとともに、この回想録に出てくるモンゴル史の若干の問題を付け加え、加筆した。